



平成 20 年 5 月 12 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 レ デ イ 薬 局
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 三 橋 信 也
(コード番号 3027 J A S D A Q)
問 合 せ 先 取 締 役 経 営 企 画 室 長 井 谷 義 彦
TEL 089-917-8000

会 社 名 株 式 会 社 メ デ ィ コ ・ 二 十 一
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 平 田 良 矢
問 合 せ 先 常 務 取 締 役
管 理 本 部 長 高 橋 秀 徳
TEL 089-911-2350

会 社 名 株 式 会 社 フ ジ
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 尾 崎 英 雄
(コード番号 8278 東証第一部、大証第一部)
崎 問 合 せ
先 常 務 取 締 役
企 画 ・ 管 理 本 部 長 福 山 公 平
TEL 089-922-8112

株式会社レデイ薬局による株式会社メディコ・二十一の株式交換による完全子会社化

及び株式会社レデイ薬局と株式会社フジの資本業務提携の強化

に関するお知らせ

平成 19 年 9 月 25 日に公表いたしました「資本・業務提携に関するお知らせ」に記載のとおり、株式会社レデイ薬局（以下、「レデイ薬局」といいます。）と株式会社フジ（以下、「フジ」といいます。）は、「資本・業務提携に係る契約」を同日付けで締結するとともに、平成 19 年 12 月 10 日付けでフジがレデイ薬局の株式数 1,795 株（発行済株式総数に対する割合：11.46%）を取得することで資本関係を構築し、様々な業務提携の内容について検討を続けてまいりました。

その後、レデイ薬局とフジの100%子会社の株式会社メディコ・二十一（以下、「メディコ21」といいます。）の提携を中心とした具体的な提携内容を検討した結果、本日開催の各社取締役会において、レデイ薬局を完全親会社、メディコ21を完全子会社とする株式交換（以下、「本件株式交換」といいます。）を行うことを決議し、レデイ薬局とメディコ21は株式交換契約を締結するとともに、レデイ薬局及びフジの更なる資本関係及び業務提携関係の強化を図るための資本業務提携（以下、「本件資本業務提携」といいます。）を行うことを決議し、レデイ薬局とフジは資本業務提携契約を締結しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

I. 本件株式交換及び本件資本業務提携の強化について

1. 本件株式交換及び本件資本業務提携の強化の背景及び目的

現在、ドラッグストア業界は、総人口の減少による市場規模の縮小や、同業社間の競争に加えて、今後施行される薬事法の改正による「登録販売者」制度により、他業態との競争激化にも拍車がかかる厳しい状況が推測されます。

レデイ薬局はフジとの間に「資本・業務提携に係る契約」を平成19年9月25日付で締結して以降、本日発表のメディコ21に関する案件を重点的に協議し、レデイ薬局及びメディコ21が中国四国地方を基盤とし「お客様に信頼される薬局」としてドラッグストア・ドラッグストア調剤併設店・調剤薬局を経営し、環境対応業とも言える小売業として、消費者のニーズに素早く順応し、お互いの企業価値を向上するには、フジ、メディコ21、レデイ薬局の3社で一致協力体制として営業基盤の統合による顧客満足の向上、中国四国地方における顧客基盤の確立、コスト削減と経営効率の向上、人材・組織の活性化を実現することが必要であると判断いたしました。

フジは、『安全・安心』はもとより、『健康・鮮度・おいしさ・本物・トレンド・おしゃれ・快適さ』にこだわった商品やサービスを、自信を持って提供することで、地域のお客様一人ひとりの満足を徹底的に追求することを基本に、様々な流通業に必要であると考えられる関連事業やノウハウを持ち、中国四国地方に展開する総合小売業であります。

メディコ21は、「美と健康」をテーマに掲げ調剤と中国四国地方を基盤としたドラッグ、コスメティック、消費頻度の高い日常生活用品の販売を中心に、それぞれの地域のお客様の生活をより便利で快適なものにすることを基本としたドラッグストアチェーンであります。

レデイ薬局は、中国四国地方を基盤として、長年培ってきた接客相談販売と、「全てはお客様のために・治す相談薬局」を基本に、ドラッグストア・ドラッグストア調剤併設店・調剤薬局を展開するドラッグストアチェーンであります。

本件株式交換は、メディコ21がレデイ薬局の完全子会社化となることにより、下記2の通り両社の持つ店舗網により磐石の地域ドミナントを形成するという経営基盤を今以上に充実したものとし、また両社の持つ様々なノウハウの相乗効果による企業価値の向上、それにより中国四国地方において揺ぎ無いドミナントを形成するための基礎となると判断いたしました。

両社は、今まで培ってきたお互いの企業文化を理解・尊重し、個々の有する強みを活かし、フジの持っている様々な流通業に必要と考えられる情報処理、不動産賃貸等の関連事業を含めた経営資源を3社間で共有することにより「すべてのお客様に喜んでいただける、ドラッグストアチェーン」となる

ことで、お客様をはじめ、株主、従業員、お取引様、地域社会を含む全てのステークホルダーの皆様に対して企業価値を高め、社会に貢献していきたいと考えております。

メディコ 21 がレデイ薬局の完全子会社となった結果、フジが保有するレデイ薬局の普通株式数の発行済株式総数に対する割合は 34.8% となり、両社はより強固な資本関係を持ち、フジが構築するフジカンパニーズに入ることによって販売促進、出店戦略等のノウハウや協力を受けることが可能になります。

レデイ薬局及びフジが事業展開をしている中四国エリアでは、高齢社会の進展や少子化等による人口減少を受け、絶対消費量の縮小が続くなか、商品の安心・安全問題、社会保障制度の将来に対する心理的不安などから消費意欲は低迷し、競争の激化なども相まって依然として厳しい状況が続いております。

レデイ薬局は、フジとの資本業務提携を平成 19 年 9 月 25 日の段階から強化することで、現在の市場規模が縮小するなかメディコ 21 と協力体制により市場シェアを高めることで、購買スケールの増大に繋がり、最終的にはお客様へのサービスを向上、またフジと共同出店を実現することで、更なる成長戦略を実現することが可能となり、結果として企業価値、株主価値を今現在の水準から向上させることが、株主様を含む全てのステークホルダーに対しての最適な経営判断と考えております。

フジは、メディコ 21 に加えてレデイ薬局という新たなドラッグストア事業を営む両社の持つ経営資源を、有機的・効果的に統合し、中四国エリアという地域を地盤とした強固な体質・体力を持った企業及び企業集団づくりを目指すために、より強固な資本関係を持つことによって、両社の持つ経営資源やノウハウのさらなる強化を図ってまいります。

2. レデイ薬局によるメディコ 21 の完全子会社化の基本戦略

(1) 営業基盤の統合による顧客満足度の向上

「商品の仕入」「店舗運営」等の営業基盤を統合または標準化することにより、商品の調達力、PB を含む新規商品の開発、そしてお客様への適時適切な商品提供の強化を図ってまいります。

また、お客様へのサービスとしての販売促進等においても、「販売促進ノウハウ」を共有することで、お客様の満足度向上を目指してまいります。

(2) 中国四国地方における顧客基盤の確立

2 社の持つ合計 199 店の店舗網により磐石の地域ドミナントを形成することで、各地域での圧倒的なシェア・知名度を十分発揮することが可能となり、それによる顧客基盤の確立を図ってまいります。

各県別店舗数

平成 20 年 3 月 31 日現在

	レデイ薬局	メディコ 21	合計
愛媛県	53 店	58 店	111 店
香川県	28 店	9 店	37 店
徳島県	6 店	10 店	16 店
高知県	-	5 店	5 店
広島県	9 店	17 店	26 店
山口県	-	4 店	4 店
合計	96 店	103 店	199 店

(3) コスト削減と経営効率の向上

管理部門等の後方業務の標準化・統合を実現することにより、両社の経営効率の向上を図るとともに、様々な物品の共同購買で調達コストの削減を進めてまいります。

(4) 人材・組織の活性化

様々な部門等において活発な人材交流を図ることで、両社の培ってきたノウハウの共有と組織の活性化を図ってまいります。

また、お客様に対して新たな価値を創造していく過程において、両社の保有する潜在的な人的能力を最大限に発揮できる環境作りを進めてまいります。

II. 本件株式交換の要旨

1. 本件株式交換の内容

(1) 日程

平成 20 年 5 月 12 日	資本業務提携契約締結（レデイ薬局、フジ）
平成 20 年 5 月 12 日	株式交換契約締結（レデイ薬局、メディコ 21）
平成 20 年 6 月中旬	株式交換契約承認及び監査役選任についての臨時株主総会（メディコ 21）
平成 20 年 6 月 25 日	株式交換契約承認及び監査役選任についての定時株主総会（レデイ薬局）
平成 20 年 9 月 1 日	株式交換効力発生日（レデイ薬局、メディコ 21）
平成 20 年 9 月 1 日	株券交付日（レデイ薬局）

(2) 株式交換比率

会社名	レデイ薬局 (完全親会社)	メディコ 21 (完全子会社)
株式交換比率	1	1.4

(注) 1. 株式の割当比率

メディコ 21 の株式 1 株に対して、レデイ薬局の株式 1.4 株を割当て交付します。

2. 株式交換により発行する新株式数等

レデイ薬局は、株式交換に際して普通株式 5,600 株を新たに発行し、株式交換による株式の割当てに充当します。

(3) 株式交換比率の算定根拠等

①算定の基礎

本件株式交換の株式交換比率の公正性・妥当性を確保するため、レデイ薬局は株式会社 KPMG FAS（以下、「KPMG」といいます。）を、メディコ 21 はフジが依頼した野村証券株式会社（以下、「野村証券」といいます。）を、株式交換比率の算定に関する第三者機関としてそれぞれ選定いたしました。

KPMG は、レデイ薬局について、レデイ薬局株式がジャスダック証券取引所に上場しており、市場株価が存在することから市場株価方式を、また、将来の事業活動の状況を比率算定に反映するために

ディスカунテッド・キャッシュ・フロー（以下、「DCF」といいます）方式を採用しました。メディコ 21 については、メディコ 21 が非上場会社であるため類似会社比準方式を、また、将来の事業活動の状況を比率算定に反映するために DCF 方式を採用しました。KPMG は上記の各算定方式を採用して両社の 1 株当たり株主価値の指標値（以下、「1 株当たり価値」といいます）の分析を行い、当該分析結果に基づき、レデイ薬局の 1 株当たり価値を 1 とした場合のメディコ 21 の 1 株当たり価値の比率を以下のように算定し、本件株式交換の実態等に照らして、レデイ薬局に対して各算定方式の結果の意味するところの説明を行いました。

	各算定方式による評価レンジ
	メディコ 21
比準方式	0.91～0.91
DCF 方式	0.83～1.52

比準方式では、レデイ薬局について、平成 20 年 5 月 9 日を算定基準日とし、算定基準日以前 1 ヶ月間から 3 ヶ月間の平均株価に基づく市場株価方式を、メディコ 21 について類似会社比準方式を採用しております。

DCF 方式では、レデイ薬局及びメディコ 21 の事業計画における将来のキャッシュ・フローを反映して 1 株当たり価値の分析を行いました。なお、DCF 方式の前提とした両社の事業計画においては、2008 年度については業績予想の数値を用いており、それ以降については大幅な増減益（前事業年度と比較して 30 %以上の利益の増加又は減少）を見込んでおりません。

野村證券は、レデイ薬局について、市場株価平均法、類似会社比較法、DCF 法、貢献度分析の各評価手法を、また、メディコ 21 について、類似会社比較法、DCF 法、貢献度分析の各評価方法を採用して算定を行い、当該算定結果に基づき、レデイ薬局の 1 株当たり株式価値を 1 とした場合の株式交換比率を以下のように算定いたしました。

	株式交換比率の評価レンジ
	メディコ 21
市場株価平均法	0.86～1.52
類似会社比較法	1.15～1.60
DCF 法	0.62～2.04
貢献度分析	1.23～2.05

市場株価平均法では、平成 20 年 5 月 9 日を算定基準日とし、基準日の終値、レデイ薬局による平成 20 年 3 月期業績予想修正公表後、基準日まで（平成 20 年 5 月 7 日～平成 20 年 5 月 9 日）の平均株価に基づき算定を行いました。メディコ 21 は非上場会社であるため、類似会社比較法によって算定した株式価値を採用しております。

また、レデイ薬局及びメディコ 21 の各社はそれぞれの算定機関から株式交換比率の公正性に関する

評価は取得しておりません。

②算定の経緯

レデイ薬局及びメディコ 21 の各社は、それぞれ第三者機関による分析結果を慎重に検討し、また各社の財務状況、業績動向、株価動向等、その他の要因として一時的な株価の希薄化の可能性を含め慎重に協議・交渉を進めた結果、本日開催された各社の取締役会において、本件株式交換における株式交換比率を合意・決議し、同日株式交換契約書を締結いたしました。かかる株式交換比率は、KPMG がレデイ薬局に対して提供した算定結果並びに野村證券がフジ及びメディコ 21 に対して提供した算定結果の範囲内で決定されたものです。

レデイ薬局・メディコ 21 の間で、各社が委託した算定資料に基づき協議を重ねてまいりました。レデイ薬局とフジとメディコ 21 が仕入業務・販売促進・ショッピングセンターへの共同出店・ドミナント形成による市場占有率の拡大等が期待できることから、将来的に成長する企業として売上高・利益水準が向上すると判断した結果です。

③算定機関との関係

算定機関である KPMG 及び野村證券は、レデイ薬局、フジ及びメディコ 21 の関連当事者には該当いたしません。

(4) 完全子会社となる会社の株予約権及び株予約権付社債に関する取扱い
該当事項はありません。

(5) 推進体制

今後両社にて設置した提携準備委員会及び分科会において、提携等を推進してまいります。

2. 本件株式交換当事会社の概要

(1) 商号	株式会社レデイ薬局 (完全親会社) 平成 20 年 3 月末日現在	株式会社メディコ・二十一 (完全子会社) 平成 20 年 2 月末日現在
(2) 主な事業内容	医薬品、化粧品、雑貨、食品等の販売及び処方箋調剤	医薬品、化粧品、雑貨、食品等の販売及び処方箋調剤
(3) 設立年月日	昭和 43 年 7 月 22 日	昭和 60 年 2 月 1 日
(4) 本店所在地	愛媛県松山市南江戸四丁目 3 番 37 号	愛媛県松山市宮西一丁目 2 番 1 号
(5) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 三橋 信也	代表取締役社長 平田 良矢
(6) 資本金の額	573 百万円	100 百万円
(7) 発行済株式総数	15,659 株	4,000 株
(8) 純資産	3,234 百万円	913 百万円
(9) 総資産	17,009 百万円	7,765 百万円
(10) 事業年度の末日	3 月 31 日	2 月末日
(11) 従業員数	413 人	280 人
(12) 主要取引先	株式会社リードヘルスケア、	株式会社あらた、株式会社パール

	株式会社旭食品、株式会社パル タック KS	タック KS、加藤産業株式会社
(13) 大株主及び持株比率	三橋信也 (25.4%) 株式会社フジ (11.5%)	株式会社フジ (100.0%)
(14) 主要取引銀行	株式会社四国銀行、愛媛信用金 庫、株式会社みずほ銀行	株式会社伊予銀行、株式会社愛 媛銀行、株式会社広島銀行
(15) 当事会社の関係等		
①資本関係		該当なし
②人的関係		該当なし
③取引関係		該当なし
④関連当事者への該当等		該当なし

(16) 最近3年間の業績 (単位：百万円)

決算期	株式会社レデイ薬局 (完全親会社)			株式会社メディコ・二十一 (完全子会社)		
	平成 18 年 3 月期	平成 19 年 3 月期	平成 20 年 3 月期	平成 18 年 2 月期	平成 19 年 2 月期	平成 20 年 2 月期
売上高	25,261	25,592	25,862	23,743	25,123	27,580
営業利益	603	582	359	323	238	101
経常利益	586	613	332	355	240	147
当期純利益	312	304	113	215	130	51
1 株当たり当期純利益 (円)	24,366	19,957	7,258	52,126	32,729	12,822
1 株当たり配当金 (円)	1,500	2,000	2,000	2,500	2,500	2,500
1 株当たり純資産 (円)	180,086	202,062	206,558	192,755	220,244	228,437

3. 本件株式交換後の状況

(1) 商号	株式会社レデイ薬局
(2) 主な事業内容	医薬品、化粧品、雑貨、食品等の販売及び処方箋調剤
(3) 本店所在地	愛媛県松山市南江戸四丁目3番37号
(4) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 三橋 信也
(5) 資本金の額	573 百万円
(6) 総資産	確定後、公表いたします。

(7) 純資産	確定後、公表いたします。
(8) 事業年度の末日	3月31日

(9) 会計処理の概要

本件株式交換による会計処理に関しましては、現時点では未確定です。詳細が確定次第お知らせいたします。

III. 本件資本業務提携の概要

1. 業務提携の内容

【業務提携の概要】

- ①店舗開発戦略（エリア、業態）の検討
- ②コストメリットの追求（物流、営業資材等）
- ③MDマスマリットの追求
- ④情報システム戦略の検討

【役員派遣の概要】

フジ代表取締役副社長 一ノ宮武文氏がレデイ薬局の監査役就任

平成20年6月25日に予定しておりますレデイ薬局第42期定時株主総会の承認が必要であります。

レデイ薬局代表取締役社長 三橋信也氏がメディコ21の監査役就任

平成20年6月中旬に予定しておりますメディコ21臨時株主総会の承認が必要であります。

2. 資本提携の内容

上記の本件株式交換により、株式交換効力発生日をもって、フジはレデイ薬局の普通株式5,600株を新たに取得することになり、既に保有している1,795株と合計して7,395株となります。その結果、フジが保有するレデイ薬局の普通株式数の発行済株式総数（21,259株）に対する割合は、34.8%となり、レデイ薬局はフジの持分法連結適用会社になります。

3. 本件資本業務提携当事会社の概要

(1) 商号	株式会社レデイ薬局 平成20年3月末日現在	株式会社フジ 平成20年2月末日現在
(2) 主な事業内容	医薬品、化粧品、雑貨、食品等の販売及び処方箋調剤	チェーンストア業（食料品、衣料品、日用雑貨品等の小売販売）
(3) 設立年月日	昭和43年7月22日	昭和42年9月12日
(4) 本店所在地	愛媛県松山市南江戸四丁目3番37号	愛媛県松山市宮西一丁目2番1号
(5) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 三橋 信也	代表取締役社長 尾崎 英雄
(6) 資本金の額	5億7,314万円	159億2,144万円
(7) 従業員数	413人	2,443人
(8) 大株主及び持株比率	三橋信也(25.4%) 株式会社フジ(11.5%)	株式会社アスティ(22.5%) フジ共栄会(5.9%)

(9) 当事会社の関係等		
①資本関係	(被所有)直接 11.5%	(所有)直接 11.5%
②人的関係		該当なし
③取引関係		該当なし
④関連当事者への該当等		該当なし

4. 日程

上記Ⅱ.1.(1)の本件株式交換の日程をご参照ください。

5. 今後の見通し

本件資本業務提携はレデイ薬局及びフジの業績向上に寄与するものと見込まれますが、具体的な数値算定には至っておりません。今後の業績に与える影響につきましては、本件資本業務提携の進捗に応じ、確定次第順次お知らせいたします。

以 上